

平成19年度 第1回

草加市みんなでまちづくり会議 議事録

1. 開催日時

平成19年4月24日(火) 午後7時から

2. 開催場所

草加市立中央公民館 第一会議室

3. 出席者の氏名

- (1) 登録員 13名(別紙)
- (2) 進行 みんなでまちづくり課課長補佐
- (3) 事務局 みんなでまちづくり課課長、みんなでまちづくり課職員 6名

4. 会議の議題

「子どもにやさしいまちづくりをすすめるために、草加市に子どもの権利に関する条例を制定すること」の提案に関する市の反映結果について

5. 公開・非公開の別

公開

6. 傍聴者

0名

7. 会議の概要

(1) 開会

進行

- ・ 新登録員の紹介：加藤郁代登録員、原謙一登録員・平山いすず登録員
- ・ 資料の確認：会議の次第・市の反映結果・登録員名簿(新規登録者のみ)
- ・ 会議録署名の指定については、登録番号15番の斉藤高子登録員と、登録番号29番の清水美津子登録員にお願いしたい。
- ・ 出席している関係所管課の自己紹介：人権共生課青柳課長、人権共生課中村課長補佐、青少年課越沢課長補佐、子育て支援課下国課長、子育て支援課石倉課長補佐、指導課片岡課長、指導課橋本主査

(2) 議題

「子どもにやさしいまちづくりをすすめるために、草加市に子どもの権利に関する条例を制定すること」の提案に関する市の反映結果について

事務局

○ 提案の概略

1989年国際児童年に「子どもの権利条約」が批准され12年が経過した。この間、「いじめ」による自殺の多発、不登校児童の増加、親による虐待や子どもをターゲットにした

犯罪の多発、少年犯罪の増加など、むしろ状況は悪くなっているとすら感じることもある。

平成17年度に、草加市の子ども施策を担当する各課と子どもに関わる活動をしている市民団体の参加により、人権フォーラム「草加市を子どもにやさしいまちに」を開催した。行政と市民双方から、今何が問題で、何が必要かがだされ、「子どもにやさしいまちづくり」が「みんなにやさしいまちづくり」でもあるとの認識を深めた。

子どもにやさしいまちは、子どもの権利を保障するまち。子ども一人一人が等しく大切な存在として、耳を傾けられ、尊重され、子どもの最善の利益が確保される中で生き生きと育つことのできるまちは、誰もが大切にするまちでもある。

子どもの権利を基礎にした「子どもにやさしいまちづくり」を、市民の間で共通認識とし、草加市の子ども施策に反映する仕組みづくりを考えるために、市と市民の参加による「草加市子どもの権利に関する条例の制定についての検討委員会等の設置」を提案する。議題の概要は以上です。

- 市の反映結果説明 関係課6課での検討結果 資料1参照

進 行

- ・ 提案者であるNPO法人みんなのまち草の根ネットの会会長宮本登録員から、ご意見を伺いたい。

提案者：宮本登録員

- ・ 主張する方向性について賛成をいただける方向の回答をもらったことに感謝する。
- ・ 幅広く議論する場を設けることについて、具体的な意見を聞けることを希望する。

登録員

- ・ 提案趣旨である子どもの権利条約の理念を踏まえて検討する場といわれていると思いますが、子どもの権利条約の理念である、子どもの最善の利益を保証するという理念を踏まえた上で論議の場を設けていただきたいことを付け加えたいと思う。

事務局

- ・ 子どもにとって最善の利益の理念を踏まえ議論する。そういった方向性で検討するが、条例に結びつくか、違った方向になるか、新しいものになるか結果を期待したい。
- ・ 関係課6課で検討するが、人権共生課を中心に検討を進める。行政のみでなく、市民活動団体と検討を進めたい。登録員からもどういった議論する場を設けるべきか意見を頂戴し、参考にしながら庁内での検討をしたい。

提案者：宮本登録員

- ・ 皆さんの意見を聞くとお聞きしているが。

事務局

- ・ 次に登録員からの意見をお聞きしたい。
- ・ ご意見・ご質問があればおっしゃって欲しい。挙手というのは難しいので、全員に意見を述べてもらいたい。

登録員

- ・ 今ひとつ理解できていないが、これから勉強したい。前回お聞きして、ご理解している方と理解できていない方がいる。この会議で提案されたものをどのように市が取り上げ、市民に知ってもらうことが大事だと考えている。提案については、こういった条例が必要とは個人的に分かるが、これがいかに市民として、ここにいる以外の方が理解できるのか。
- ・ 広報などで場を作るといってもそれに応募する方も少ないだろう。知識のある方を市が呼んで、それでまず勉強する会を作ってはどうか。

登録員

- ・ 子どもの権利条約がなかなか市民に知られていない。学習も大事。3月に人権共生課が野村

先生（独協大リーガルセンター）や若い女性のファシリテーターを呼んで、市の講演会があったが、「子どもの意見を聞きながら、子どもと一緒に作っていくこと」そこが一番大事ではないか。専門家の意見も大事だが、子どもと一緒にやっていくことで、子どもに浸透し、大人にも浸透する。より良い考えも浮かぶのでは。速やかに進めてもらいたい。

登録員

- ・ 皆さんが言うように知識のある人、子ども、小さな子どもではなく、ある程度の年齢、中学生くらいであれば理解ができるから、そういったメンバーを何人か入れての話しをしてはどうか。

登録員

- ・ 私も理解できないが、やはり小中学生を対象。今の時代は子どもを育てるのが難しい時代。共働きが多い。鍵っ子などは、小学校には学童があるが、ばらばらに帰ることなどもある。町会などボランティアで帰りを見守るパトロールなど、小中学生は安全に学校にいけるような環境が必要。鍵っ子などは、家に帰ってもつまらないので、非行なんかには走るおそれや、事故に巻き込まれるなどの可能性がある。町会を巻き込まないとダメだと思う。高齢者は時間に余裕があるため、町会に働きかけてはどうか。

登録員

- ・ 周知や知らせるとあるが、これについてはもっとインターネットを活用すべき。放送は相手がチューニングしないと聞かない。相手が聞く耳をもたないと聞けないが、通信は1対1もしくは1対N（1人の発信で複数の受け手）となる。相手が聞く耳を持つ、そういった仕組みが必要。前回の議題が1月にあったにも関わらず、3月中旬になってもその会議録がインターネットに載っていない。やるべきことをやらないで周知徹底はできない。やるべき事はやって、知りたいことを知れるように。組織を作るだけでなく、一人一人に訴えかけられる体制作りが必要。

事務局

- ・ ただいまのホームページ議事録の件については、大変ご迷惑をおかけしまして申し訳ございませんでした。

登録員

- ・ そういうところを大事にしてもらいたい。

登録員

- ・ 市民に啓発、理解してもらうため、まずは学校教育、地域社会、子育てにかかわっている社会、町会、PTA 関係者、子ども会、そういう方達に何回か集まってもらい、そういう中で情報を提供、知識をもってもらい、学習会、意見交換会、子どもを含めた意見交換をした進め方が良いのでは。

登録員

- ・ 大正昭和のおじいちゃん、おばあちゃんの遊びや、自然、草花、など環境を活用した子育てをすれば、創造性豊かな子どもが育つのでは。

登録員

- ・ 子どもを取り巻くよりよい環境をどのようにつくるべきかという総括的な場になるが、せっかくなので、現在の草加の中で子ども達がどんな状況にあるのか、しっかり見えるような議論をできる場があると良い。具体的に市民活動を色んな立場でやっているのだから、子ども会にしても、親子劇場、冒険遊び場なども子どもたちに開かれている。小さいものでしたらサークルもある。行政と一緒にいろんな分野で子供にかかわる人たちと話せば、子供達を一面でなく全体像としてつかめていかれると思う。思いつく限りの団体、行政に集まってもらって話せると良い。

登録員

- ・ 草の根ネットの会は実績があるので、条例を作ってしまったらどうか。専門家の意見を聞くとかも大事だが、最初に法律をつくってみてはどうか。問題は当然あります。
マスコミなどでいろいろなことを言うが、それは他人事。あまり意味がないのでは。
草加市では提案の条例制定を進めてはどうか。すごい欠陥のある条例となるが評論家がいろいろなことを言っても何も変わらない。市民が考える場があるのだからそれを条例化し、問題となったほうが良いのではないか。
本来なら話し合っただけで条例を作るべきだけれど、逆に欠陥だらけの条例を作ってみてはどうか。

事務局

- ・ 登録員の意見をいただいたが、これを参考として庁内6課で調整する中で、検討の場を設けていきたい。
- ・ 通常事業では1, 2課で対応できるところだが、今回6課が参加しているということは、幅広い課題であることが分かる。いろいろなところから議論し、積み重ねていきたい。意見が出た、条例をつくること自体が目的の場合もありますが、幅広い、いろいろな所から意見をいただくことで議論し、結果的に条例ができたとしてもその積み重ねで定める事になるかならないかが大事なのではないかと考えています。ご意見は受け止めさせていただきたい。
幅広い議論をすること、その積み重ね、経過が重要と考える。
市民に浸透していないという意見をもらったが、こうした機会の中で市民への啓発、有識者、子ども、必要に応じて意見を聞く、有識者を含めて議論する場も時には必要となる。
関係6課が中心となって進め、市民にも入っていただき、登録員さんを中心とし、お集まりいただく中で、有識者等の議論も進めていく。
条例を作ることが目的でなく、環境を整えていくというのが重要ではないかと考えている。
子どもとしては、幅広く意見や議論をできる場を設けていきたいと考えております。

登録員

- ・ 集まる関係課が多いということは、いろいろな場面を持っている。集まる人も子どものいろいろな場面に関わっている人たちが集まるべき。
- ・ 市民活動、体育、町会、子ども会、子どもが生活している場にかかわる大人が集まる場として欲しい。その意見を交通整理するために知識を持つ人が必要。市民は知っていることは知っているが、知らないことは知らない。議論を積み上げるために議論を整理する専門家を呼んでほしい。この場ができるのなら、場にかかわる大人の参加、専門家の必要性を意見として出させてほしい。

登録員

- ・ 今の子どもがどういう考えをもっているか、いまいち分からない。学校のいじめ、友達同士のいじめなど、どうして、すぐ自殺に走るかなど理解できない。我々素人では分からないと思う。もう少し深く突っ込んだ議論が必要では。

登録員

- ・ 知識を共有しても自殺は減らない。我々が理解しても自殺は減らない。

登録員

- ・ 自殺は減らないといっっては、それでは議論にならない。

登録員

- ・ 議論を深めるより、問題ははっきりしているのでは。

登録員

- ・ 子どもの中に入って、話を聞いて、問題を少なくしていくことが重要なのでは。

登録員

- ・ 大人がどう関わるか、関わり方が変わることで減らせるのではと考える。

- ・ アンケート調査では、周りの大人を信じることができないから誰にもいえない。信じる仕組みをつくるのが社会的につくられるなら、子どもが自殺をとどまることができのでは。そうした仕組みが必要。その話し合いの場がほしい。子どもが安心してまわりに相談できる仕組みが今の草加にはない。
- ・ 大人の関わり方を議論できる場が必要なのでは。

提案者：宮本登録員

- ・ 草の根ネットの会で提案したのは、市民による検討委員会等を設置し検討する事を提案しています。
広くそういう場を設けていきたいというのが回答だと思いますので、私たちの提案は、検討の場にあるのです。
- ・ 啓発も含めながら実施されていくが、検討の場である。
- ・ 期限がないので、いつ頃 1 回目をするとか、今までのハードの提案でも期限がなく再度検討ということもあった。この提案も、関係部署と検討すると前向きな回答をもらったが、それらがいつ頃実現するのかを知りたい。それでなければ、場を設けず、調整はしていますばかりになるおそれがある。

事務局

- ・ 次回の会議 7 月に、広く議論する場を検討し提案する。早い方がよいが、皆さんの意見を含めてスタートした方がよい。
- ・ 次回の会議で提案した内容に関し意見を伺い、こちらが用意したものでよいか、ご意見をいただきたいと思います。

提案者：宮本登録員

- ・ そういう回答であれば、ある種の期限が見えるので了解である。

事務局

- ・ 他に意見は？
- ・ 関係各課からの質問は？

関係各課

- ・ 特に意見はない。

登録員

- ・ 子どもの権利条約はかなり前に制定されたが、浸透していない。国連子どもの権利委員会からも日本の子どもの自殺が多いことを危惧するという指摘がされている。市の中で一歩進めて条例を検討しては。
- ・ 幅広く議論する、専門家の意見をお願いしたい。
- ・ 地域で問題があると思う。今までの経験を踏まえるのも必要だが、交通整理の為の専門家を依頼する。
- ・ 獨協大学にもリーガルセンターができ、子どもに関わることでも期待している。一緒に市からも働きかけて参加してもらう方法もあるのでは。

事務局

- ・ ご意見等がなければ、議題については閉めさせていただく。その他、以前の議題についての進捗状況を報告させていただきたい。

事務局

① 蒲原公園再生事業についての報告

- ・ 行政主体型ではなく、地元主体型として、地元で管理をしてもらいながら進めている。
- ・ 昨年度は、3か年の整備スケジュールにのっとり、第1期工事「軽スポーツのできる公園としての整備」を行った。
- ・ 今年度も「軽スポーツの場としての利用をさらに高めるための施設の充実」として、第

2期工事を、夏休みの利用を考慮して9月頃からの工事開始を予定している。

- ・ 今後も、地元と話しあいを持ちながら進めていく。

② ふれあい通り親水緑道についての報告

- ・ 開発業者区間（北西 130.0m）は、4月17日に開発行為の検査が終了した。
- ・ 検査が終了した区間の、散水栓及び照明灯については、業者及び瀬崎まちづくり市民会議と話し合いを進めて当初の設置場所を変更した。
- ・ 市整備区間（南東 55.0m）は、平成19年度は現状の河川の補強・蓋掛けを行う予定で、業者と契約が済んだ段階。
- ・ 5年後の親水化を考えながら、瀬崎まちづくり市民会議と話し合を進め、今年度は、河川の蓋掛けの進行に併せ、草花の植栽と、民家側に目隠しのための生け垣を植栽する予定。
- ・ 具体的な親水化についてはの話し合いは、これから進めていく予定。

③ みんなでまちづくり会議を活性化するための検証組織の設置についての報告

- ・ （仮称）みんなでまちづくり会議等検証委員会として、委員会を設置するため、要綱等の整理・準備をしている。
- ・ 構成員は、条例を検討していた懇話会のメンバーを基本とし、まちづくり登録員など市民の方々にもご参加いただくことで進めていく。

事務局

- ・ ご提案いただいた議題については、このような状況になっている。以上を持って会議を終了します。登録員の皆さんありがとうございました。

進 行

- ・ これで、平成19年度第1回のまちづくり会議を終了する。

以 上

署名登録員

署名登録員